

在留外国人と言語(第6講)

日本語の国際化

この講座で学ぶこと

- ▶ 日本語を世界に広めるとどのような利点があるのか。
- ▶ 各国が自国の言語を普及させようとしている姿を知ること、日本語を広めることがどのような意味を持つか考える。



国際連合で使われる言語


- ▶ 憲章が規定する国連の公用語は中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語の5カ国語であるが、時の経過とともに総会、安全保障理事会、経済社会理事会の用語は6カ国語（アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語）に拡大された。
- ▶ これらの用語のうちフランス語と英語が事務局と国際司法裁判所の常用語である。
- ▶ 日本語は含まれていない。

各国が自国語の普及に努力していること

- ▶ 各国は専門の機関を設立して自国語の普及に努めている。
- ▶ アメリカ：アメリカン・センター
- ▶ イギリス：ブリティッシュ・カウンシル
- ▶ フランス：アリアンス・フランセーズ
- ▶ ドイツ：ゲーテ・インスティトゥート
- ▶ 中国：孔子学院
- ▶ 日本：国際交流基金



日本語の普及のために

- ▶ 「武器としての日本語」という概念
 - ▶ 留学生受け入れ10万人計画→
 - ▶ 国際交流基金
 - ▶ 国際協力機構(JICA)
- 
- ▶ 2023年5月1日現在の外国人留学生数は279,274人である。
 - ▶ 日本人学生の海外留学状況は、2022年度で58,162人である。

日本語学習者の数

- ▶ 全世界では？
- ▶ 海外では133か国・地域において、365万人余りが日本語を学習している。
- ▶ 韓国 91万人
- ▶ 中国 68万人
- ▶ オーストラリア 38万人
- ▶ インドネシア 27万人
- ▶ 台湾 19万人
- ▶ その他に、アメリカ、タイ、香港、ベトナム、ニュージーランドなどで学習されている。
- ▶ 2018年の調査では、海外の142か国・地域で日本語教育が行おこなわれており、学習者数は約385万人、教師数は約7.7万人である。



日本語教育と国語教育

- ▶ 日本語教育と国語教育はどのように異なるか。
- ▶ 日本語教育学会 The Society for Teaching Japanese as a Foreign Language.
- ▶ 日本語教育→一つ一つ助詞や助動詞の用法、動詞や形容詞の活用を学習する必要がある。
- ▶ 小学校1年生の国語の教科書は日本人にとって易しいからと言って、文法的な配慮がないので、日本語学習には使えない。受け身や使役も出てくる。口語独特の表現、昔話、方言がある。
- ▶ 国語教育は家庭や幼稚園で身に付けた日本語を書き言葉として理解する。「日本人」を作りあげることが目的である。



説明ができるか？

- ▶ 日本語の母語話者でも以下のような質問には答えに窮する場合がある。
- ▶ 私が田中です。
- ▶ 私は田中です。
- ▶ 500円だけ持っている。
- ▶ 500円さえ持っている（いない）。
- ▶ 500円しか持っていない。
- ▶ 500円だけ持っている。



日本語能力試験

- ▶ 世界62の国・地域で36万人が受験。(2012年第2回日本語能力試験)
- ▶ N1, N2, N3, N4, N5
- ▶ N1の問題の例
- ▶ 彼は今、新薬の研究に挑んでいる。
- ▶ ①はげんで ②のぞんで
- ▶ ③からんで ④いどんで



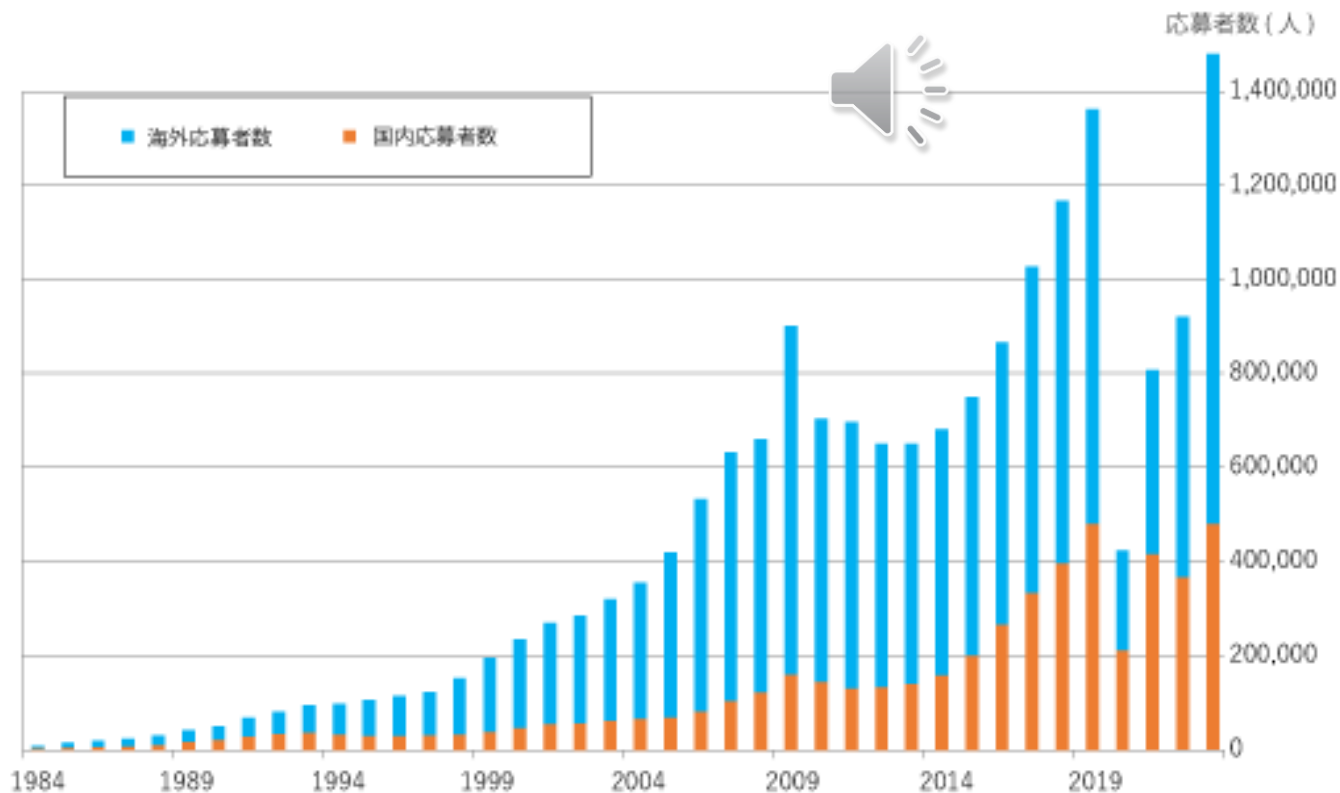
日本語教育能力検定試験

- ▶ 今年の試験は2024年10月27日(日) 9:00~16:40
- ▶ **日本語教育能力検定試験** (Japanese Language Teaching Competency Test) とは、財団法人日本国際教育支援協会が主催し社団法人日本語教育学会が認定している、日本語教育を行う専門家として基礎的水準に達しているかを検定する試験である。
- ▶ 以前は、1級、2級、3級、4級に分かれていたが、CEFRの影響を受けて、現在では、N1, N2, N3, N4, N5と分かれています。ここでは、数字が多いほど基本的であることを示す。旧の1級→N1 旧の2級→N2 旧の3級→N4 旧の4級→N5 となった。新しく、N3が新設されて、日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベルを示すことになった。



歴史

- ▶ 日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育協会 (現日本国際教育支援協会)が1984年に開始した。
- ▶ 開始当初の受験者数は全世界で7,000人ほどでしたが、2011年の受験者数は全世界で約61万人にのぼり、世界最大規模の日本語の試験となっています。2023年においては、過去最高の約148万人応募があった。
- ▶



本試験の目的は. . .

- ▶ 日本語教育能力検定試験の目的
- ▶ 「日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者を対象として、日本語教育の実践につながる体系的な知識が基礎的な水準に達しているかどうか、状況に応じてそれらの知識を関連づけ多様な現場に対応する能力が基礎的な水準に達しているかどうかを検定すること」である。
- ▶ 国家試験や公的試験ではないが、本試験に合格した者は日本語教師の「有資格者」とされる。

国際交流基金

- ▶ 政府は、国際交流基金を通じて、日本語専門家の海外派遣、海外の日本語教師及び学習者の訪日研修、日本語教材の開発・寄贈等を行っている。
- ▶ 各国の在外公館においては在外公館文化事業を通じて日本語弁論大会を開催する等、日本語普及に努めている。
- ▶ 海外53か国・地域、173都市で日本語能力試験を実施している。



JSL

- ▶ 日本でも最近は多くの移住者が増えてきたので、JSL (Japanese as a Second Language)を教えることが増えてきている。
- ▶ 国語と日本語の違い
- ▶ 小学1年生の国語の教科書は日本人には容易としても、文法的な配慮はされていないので、日本語学習には使えない。日本人は受け身や使役の使い方も知っているが外国人の子どもには難解である。

課題

- ▶ 日本語能力検定試験はどのような目的で作られたのか述べよ。
- ▶ 日本語教育と国語教育の違いを述べよ。

